

日中観光文化交流団 記者会見

日 時：2015年5月24日（日）09：00～10：00

場 所：在中華人民共和国日本大使館

会見者：二階俊博／日中観光文化交流団名誉団長・衆議院議員・自由民主党総務会長

御手洗富士夫／日中観光文化交流団特別顧問・経団連名誉会長

絹谷幸二／日中観光文化交流団団長・画家

山本幸三／衆議院議員

伊藤忠彦／衆議院議員

長崎幸太郎／衆議院議員

田川博己／日中観光文化交流団実行委員長・一般社団法人日本旅行業協会会長

山口範雄／日中観光文化交流団副団長・公益社団法人日本観光振興協会会長

松山良一／日本政府観光局理事長



二階名誉団長

この団の編成から実行にいたるまで大変なご努力をいただいたことに感謝を申し上げます。昨日の交流大会において、習近平主席からこれからは日本と仲良くやって行こうという発表があり、我々はこれを受けて日中関係を改めて考えて参りたいと思いました。大変、気にかけていただいていた安倍総理にこの状況を、林幹雄委員長同席のもと、総理にポイントだけお話をさせていただきました。総理からは団員の皆さんに対するねぎらいの言葉もありました。

昨日の友好交流大会のみならず、いろんな地域、いろんな場所に皆様に訪れていただき、私たちは話し合いをし、また協力の約束をしてきたことなどたくさんありますが、今後よく整理をして、私の方針であります、できないことは言うな、言ったことは実行しろ、ということも自らに言い聞かせながら、皆さんにもご協力いただいた日中観光文化交流大会の成果に応えられるようにしっかりと努力していきたいと思っております。

御手洗特別顧問

初めて、交流団に参加させていただき、非常に有意義で充実し、素晴らしいという感想です。外交面において、長い間、日中間は閉塞感が漂っておりましたが、安倍総理、習近平主席の2回の首脳会談によって、風穴が開いたと思います。今回の3162人の大デレゲーションが来て、中国の政治、経済、文化を代表する人たちと対話交流があり、非常に充実したミッションになりました。こういった交流の中で日中関係の重要性、信頼関係が発展していく重要性を再確認しました。

昨日の中国側の歓迎の夕べも、非常に充実した立派なもので、もの凄く歓迎してもらえ、中国側の心意気を感じられました。習近平主席が、あのような大デレゲーションの前で直接、日中関係に触れたということは初めてだと思いますが、一貫して、日中関係の信頼の確立から友好、発展と未来志向で、力強く、感銘を受けました。4月に、観光大臣同士で、日中韓で2020年までに3000万人交流するというようになっており、その第一歩の位置づけになると思います。民間レベルで行動し、交流し、両国を相互理解することが必要だと思います。

絹谷団長

日中文化交流協会という、大変昔から、日本と中国の国交を開いた団体がございます。文化・芸術を通じて、中国と接触しました。会長の岡崎嘉平太先生が文化・芸術交流の礎を築かれ、日本で一番古い交流協会で、二階先生と知り合いになり、芸術・文化を通じて、掘り起こした井戸に水を注いでくださったのが二階先生だと思います。

湖南省の商談会に二階先生が行っておられ、その時に私が団長させていただきました。そういう経緯で今回、団長をさせていただきました。3000人が中国のいろいろな観光地に出かけて、こちらの方と接触される、そしてそこで、心と心が触れ合って、心と心の通じ合う民間人の目で、この国を見、あるいは日本人を知ってもらうというような交流の意義は大変大きいものだと思います。

田川実行委員長

今回、実行委員長を努めさせていただいて、習近平主席においでいただき、この上ない喜びでございます。上海万博の後、いろいろ問題があり、この4年間、日本から中国に来るお客さんが減っていることに、非常に危機感を抱いていました。3162名のお客様に、今回来ていただきました。まず見ていただく、そして知っていただく、そして感じていただくということが、もっとも、旅行には必要です。そういう場面を昨日、体験いただいたのではないかと思います。そして、これが一過性のイベントではなく、新たな日中間の交流が始まると思います。昨日の交流会では青少年交流という言葉もたくさん出ました。若者には、日中関係の改善に向け、日本と中国の交流強化をしてもらえればと思います。私も旅行業界の人間ですから、これまで中国のルートがたくさんありました。これからは、新しい中国をどのように見ていくかということが大事なのではないかと思いました。これまで歴史の背景なりの

日中間の交流の中でコミュニケーションしていくこと。単なる観光地を見に行くのは観光ではなく、その地域の生活・文化を見に行くことがもっとも重要な交流だと思いますので、その意味では、新しい中国、新しいルート、そういう海外旅行を改めてつくって行きたい。特にその中でも上海万博が終わった後の上海は、都市型観光としても急成長を遂げているので、これまで世界遺産ルートが中心だった中国も、都市型観光について、ヨーロッパと同じような新しい商品開発をして行きたいと思います。下期には日本と中国の間の定期便が2.5倍になるという報道がありました。しっかりと商品造成をして行きたいと思います。日本人の中国への旅行者の増加に向けて一層の努力をして行きたい。これから具体的な商品づくりをしていき、改めて中国の良さを伝えられるような努力をして行きたいと思います。

山口副団長

日本観光振興協会は、日本の企業、観光関係団体、47都道府県、地方自治体、こうした組織を660余り、組織化している観光関係の団体です。私どもの役割は、観光産業というのは裾野の広い経済効果の高い産業だと言われていています。そうしたことを実行するためには、いろいろな部門の連携をすることということが極めて大事であります。もちろん、日中間の国レベルの連携も一番大事なことでありますし、加えてここまで日中間でもっていろいろな観光客の往来がありました。今までは、両国の主要な観光地域の往来が中心でしたが、それぞれの周辺には非常に特徴のある地域がたくさんあります。これから両国でもってそうした各地域、ローカルな部分も含めた地域間でのレベルの連携も非常に大事な事になると思うので、そうした連携、つなぎ役に私どもは努めたいと思っています。昨夜の習近平主席のお話の中で、民間レベルでの交流が極めて大事だと強調されました。特に観光分野については、その部分が大きいだろうと思っています。民間の草の根レベルでの交流、こうしたことを地道にしっかりとそれぞれ積み重ねていき、結果としてはそれが非常に大きな経済効果を生むと。そういうことに努めていきたいと思っています。

山本幸三衆議院議員

昨日、地方創生観光シンポジウムでは、日本から4名の知事、中国各地域の代表と意見交換し、問題点、課題等が話し合われました。地域から観光を進めていくことが非常に大事だと思います。買い物ばかりするのは観光じゃないと思います。私は毎年、中国に来て定点観測していますが、この4、5年非常に厳しい日中関係でしたが、昨日、習近平主席の発言は、日本のことを考慮した非常に前向きな発言と受け取っています。そのことを高く評価したい。国側が日本との経済、資本、技術を含めた、文化交流、観光交流、こうしたものが極めて大事なことだと再認識して、それがあの発言になったのではないかと思います。

二階名誉団長

唐家璇元外務大臣、中日友好協会の現会長の唐家璇先生にもぜひお越しいただき、日本国民の前で熱い思いを語ってもらいたいと思っておりました。これも快く快諾いただき、日程調整に入りたいと思います。NHK 交響樂團についても、昨日、中国の文部省あげて行うとのことでしたので、友好のために日本側もバックアップして、立派な演奏会にしたいと思います。次に、温家宝元総理は震災後に 500 人の子どもたちを海南島に招待して下さいました。そういうことに対し、日本にはお返しする文化、礼儀があり、中国にもそういう文化がある。そういうことから 500 人の子どもたちをなんとか今回参加の知事の地域の方々に 100 人ずつ受け持ってもらい、100 人は我々議員連盟が皆で協力し合い、500 人を招待します。東北の方々は自らの復興を必死でやっておられるので、災害を受けていない地域の人々で招待をします。小さなことの中に大事なことがある。これが私たち観光という面で、一翼を担う必要な役割です。

【質疑応答】

質問：テレビ朝日

昨日、安倍総理大臣とも話しをされたということですがけれども、その電話の中で、習主席が言われた「歴史の問題を歪曲してはいけない」ということについて、どういう話があったのか、また、それに対する安倍総理の見解は？

答：二階名誉団長

日本と中国とはいろんな状況、感情が違うわけですから、私は安倍総理には帰ってお目にかかって報告したいと思いますが、安倍総理は昨日の会談を注目しておられただけに非常に喜んでおられたということが 1 つ。もう 1 つは、親書を渡してその反応はどうかということでございます。総理は言わなかったが、考えていられるに決まっていますから、私はそれらについて若干の話をしましたが、中国と日本と環境ですっかり違いますから、帰って直接お話ししたいと申し上げました。本来、外交上、通例では電話でそんな重要なことまで話し合うことはありません。喜んでおられたというのはまったく間違いのない事実であります。どうぞ、これも皆さんのおかげですが、本当に一応の成果を上げられたということが言えると思います。

質問：日本テレビ

今回、日中の友好ムードが造成されたと思うのですが、日本では安全保障法制、戦後 70 年の締めくくりが最大の改革と言われていています。今回の日中友好ムードから確かな関係改善に向けて、政府に期待していることは何ですか。

答：二階名誉団長

日中友好を前に向けて進めようという総理の確固たる信念をこの親書として我々に託したわけです。私は異例のことではありますが、3000 人を超える皆様の前で、習近平主席に親書を手渡せたわけでありますが、それからよく知恵を出し合ってやって行きましょうということに対して、日本も真摯に応えていく、そのことが大事じゃないかと思います。皆、一段高いところに上って、評論家みたいに、そういうポジション、気分でいろいろなことを言いますが、それではだめです。もっと同じレベルになって真剣な話し合いをしなくてはならない。私は政府が我々の活動からそういうことをしてくれるだろうかと思っています。

質問：

旅游局長との会談があったということですが、決まったことはありましたか。

答：二階名誉団長

旅游局長は最近、ご就任され、先般、日本においでになったときに、時間をかけていろんな話し合いをしました。今回も、我々一行を招いて懇談会を開いたり、私に下手な字をかかせて喜んで一日で表装をして持ってきて、しかもあんな大勢の前で披露され、中国は恐ろしい国だな、こんなことをたくらんでいたのかと言ったんですが、そんな冗談を話せるような状況になりましたから、今後、李金早さんと具体的にいろんなことを計画して、日本と交流することは大事だということを実践できるように我々はして行きたい。田川さんとやっていくことだが、自信がありますからやります。

質問：

昨日の夕べを見ていると、改善の兆しがあるとは言え、習近平主席の挨拶の中で、「この侵略の歴史を歪曲しようといかなることは許さない」という言葉がありました。この夏の安倍政権の戦後 70 年談話に対して中国側は注目していますが、どのような談話が望ましいと考えていますか。また、安倍総理とその談話の内容について、ある程度話されたのかそれについて教えてください。

答：二階名誉団長

すでに総理の談話について、1 回激論したことがありますが、たびたび総理にああしたらいい、こうしたらいいということはありません。総理はずっとお考えになっていて、日中問題がいかに重要なことであるかということも十分承知の上ですから、自分たちの党、あるいは連立を組んで総理を送り出しているわけですから、総理に全幅の信頼をかけて、対外的には仲良く行くように。このことは世界的にも注目されているといえます。この 70 年談話は立派な談話となるよう期待しておりますが、私の方から 70 年談話についてこれ以上意見を述べるつもりはありません。成功されるように期待したいと思います。

質問：

日中の経済協力機構というものを立ち上げると言われましたが、これについてどういうイメージを具体的にお持ちになっているか教えてください。

答：二階名誉団長

経済界の皆さん、あるいは中国関係の皆さん、また、ご出席の方々の今日までの発言や、今回私がこちらに来てからのご意見等を集約してみると、やはり観光交流と言っているだけではなく、経済交流が一番大事だろうということは間違いないです。そういう意味で、我々が帰国した後も、日中で話し合いを続けて、良いものに仕上げて行きたいという熱心な希望者があり、私が広州に行った時もそういう話が出ておりました。それを公の場で話して欲しいと中国側からもありました。日本側にも異論があるわけなく、経済交流に対して機構を立ち上げて行こうとしているところですから、関係者の努力に期待したいです。我々もしっかり対応して行きたいと思います。